

生活単元学習の「単元系統表」

生活単元学習の「単元系統表」とは

学習内容に含まれる
各教科等との関連を「見える化」

- ・学習内容に関連する教科の内容・段階
- ・育成を目指す資質・能力
- ・小・中・高の12年間の系統性

学習指導と
学習評価の
一体化

授業の質の
向上

個の指導の
充実

生活単元学習の「単元系統表」の構造

本校で実施している単元を、遊び単元、季節単元、栽培単元等に分類した上で、小学部・中学部・高等部の全学部で実施している校外宿泊学習単元を取り上げ、「単元系統表」のモデルとして作成しました。そして、その構造を、以下の3つの項目に分けて示しました。

- ①単元概要一覧（小学部・中学部・高等部の学部間の系統性を把握するもの）
- ②関連する教科一覧（学習内容に、何の教科が関連しているかを把握するもの）
- ③学習内容表（学習内容に関連する教科の内容と段階、育成を目指す資質・能力等を把握するもの）



① 単元概要一覧

<校外宿泊学習単元>

	小学部		中学部		高等部	
単元名	七ツ森にとまろう	修学旅行 那須に行こう	仙台宿泊学習に 行こう	修学旅行に行こう	仙台宿泊学習に 行こう	修学旅行に行こう
学年	2～6年	6年	1～3年	3年	1年	2年
時期	6月	10月	6月	12月	12月	12月
宿泊数	1泊2日	1泊2日	1泊2日	2泊3日	2泊3日	2泊3日
活動場所	七ツ森 万葉クリエイティブ パーク	那須 りんどう湖 レイクビュー	仙台 全体 楽天球場、NHK 学年別 1年：市内余暇施設 2年：ペニーランド 3年：うみの杜水族館	東京 東京スカイツリー 上野動物園 東京ディズニーランド 葛西臨海水族園	仙台 就労関係施設 市内歴史・文化施設 ・仙台城址 ・大崎八幡宮 ・メディアテーク等 余暇施設	京都、大阪 京都タワー 伏見稲荷大社 ユニバーサルスタジオ オジャパン 大阪城 道頓堀
宿泊場所	七ツ森希望の家	ロイヤルホテル 那須	ホテル白萩	シーサイド江戸川	障害者福祉センター	ホテル京阪 京橋グランデ
交通手段	かりん号	かりん号 新幹線	かりん号 JR バス 地下鉄	かりん号 JR バス 地下鉄 新幹線	JR バス 地下鉄	JR バス 地下鉄 飛行機

学習形態	- 全体～個別 - 教師や友達と一緒に	- 全体～個別 - 友達と分担して - できる状況づくりの上で、 自分で取り組んでみる。	- 全体～個別 - グループ内で分担して - できる状況づくりの上で、 自分で最後まで取り組むことができる。
教材・教具	- 計画表 - カレンダー - イラスト - 写真 - 動画 - 具休物	- タブレット - TVモニター - パソコン - 日程表	- タブレット - TVモニター - パソコン - 日程表 - 計算機 - 自分のスマートフォン
学習場所	- 教室 - 体育館	- 教室 - 生活訓練室	- 教室 - 視聴覚室 - 調理室

② 関連する教科一覧

小学部			中学部			高等部		
学習内容	関連する教科等		学習内容	関連する教科等		学習内容	関連する教科等	
1 学習の見通し	生活	国語 算数	1 学習の見通しと計画	国語	数学 社会	1 学習の見通しと計画の立案	国語	数学 社会
2 自分の役割や係	生活	国語	2 自分の役割や係	国語	社会	2 自分の役割や係	国語	社会
3 自分の目標	生活	国語	3 自分の目標設定	国語	社会	3 自分の目標設定	国語	社会
4 基本的な生活習慣	日生	生活	4 基本的な生活習慣	日生	職業・家庭	4 基本的な生活習慣	日生	家庭
5 -	-	-	5 -	-	-	5 調理	日生	家庭
6 公共交通機関や公共施設の利用	国語	生活	6 公共交通機関や公共施設の利用	国語	数学 社会	6 公共交通機関や公共施設の利用	国語	社会
7 公共のルールやマナー	国語	生活 道徳	7 公共のルールやマナー	国語	社会 道徳	7 公共でのルールやマナー	国語	社会 道徳
8 遊び	遊び	-	8 余暇活動	国語	社会	8 余暇活動	国語	社会 家庭
9 -	-	-	9 -	-	-	9 予約や申し込み	国語	社会
10 金銭の扱い	国語	生活	10 買い物、金銭管理	国語	数学 社会	10 買い物、金銭の扱い	国語	数学 家庭
11 振り返り	国語	生活 図工	11 振り返り	国語	美術	11 振り返り	国語	美術
人との関わり	特別活動	-	集団行動、協力	特別活動	-	集団行動、協力	特別活動	-

③ 学習内容表－1

学部	小学部			中学部		高等部	
学習内容	学習の見通し		生活・国語	学習の見通しと計画	国語・数学・社会	学習の見通しと計画立案	国語・数学・社会
段階	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
目指す姿	- 教師や友達への働き掛けを感じとり、注目したり反応を返す。（国：A聞くこと・話すこと・イ） - 日にちに関心を持つ。（生活・ウ・日課・予定） - 訪問先に関心を持つ。（生活・コ）	- 教師の指示や説明を聞いて、その指示に応じて反応をする。（国：A聞くこと・話すこと イ） - 本日から校外学習までの日程を感じ取る。（生活：ウ） - 日課・予定 - 訪問先の施設や内容を知る。（生活：コ社会の仕組みと公共施設）	- 教師の指示や説明を聞き、内容を理解する。（国語：知識・技能） - 教師の問い掛けに応じて、伝えようとする。（国語：A聞くこと・話すこと イ） - 校外宿泊学習の日にちや時刻を理解する。（算数：C測定） - 訪問先の施設等の場所や働きを知る。（社会：イ公共施設と制度） - 訪問地の施設や活用の仕方を知る。（生活：コ社会の仕組みと公共施設）	- 教師の指示や説明の内容を理解し、学習活動に見通しを持つ。（国語：知識・技能） - 校外宿泊学習の日程や簡単な時刻や時間の求め方を理解して生かす。（数学：C測定） - 訪問先の施設等の場所や働きを知る。（社会：イ公共施設と制度） - 自分の意見と友達の意見の違いを知る。（国語、他）	- 学習活動に見通しを持ち、活動計画の立て方を知る。（国語、他） - 時刻表等の見方を知り、計画に生かす。（数学：Dデータの活用） - 県の主要施設の位置、地理的な特色等を知る。（社会：イ公共施設と制度） - 友達の意見と比較したり、優先順位を付けたりして行き先を決める。（国語、他）	- 学習活動に見通しを持ち、活動計画に沿って取り組む。（国語、他） - 活動に必要な情報を収集し、自分に必要なものを選ぶ。（国語：A聞くこと・話すこと） - 卒業後に利用する施設等（余暇施設、グループホーム等）の役割や活用方法を知る、調べる。（社会：イ公共施設の役割と制度） - 県内外の歴史・文化施設等の内容や特徴、利用の仕方を知る、調べる。（社会：オわが国の国土の様子と国民生活、歴史） - 友達の意見と自分の意見と比較して行き先を決める。（国語：A聞くこと・話すこと）	- 学習活動に見通しを持ち、活動計画の一部（グループ別研修）を立案する。（国語、他） - 活動に必要な情報を収集し、データ等を見比べて自分に必要な情報を選ぶ。（数学：Dデータの活用） - 卒業後に利用する施設等（ハローワーク、就労施設等）の役割や活用方法を知る。（社会：イ公共施設の役割と制度） - 県内外の歴史・文化施設等の内容や特徴、利用の仕方を知る、調べる。（社会：オわが国の国土の様子と国民生活、歴史） - 友達の意見と比較したり、優先順位を付けたりして行き先を決める。（国語：A聞くこと・話すこと）
学習内容	- 学習の目標を知る。 - 本日の日付、曜日、当日までの日数を知る。 - 訪問先の施設や公共交通機関等を知る。 - 計画表を作成する。（日付、訪問先、活動場所、日程の見通し） ※児童の実態に応じて、上記の段階から内容を選択する。			- 学習の目標を知る。 - 本日の日付、曜日、当日までの見通しを持つ。 - 訪問先の施設・設備や公共交通機関等を知る。 - 友達の意見と比較したり、優先順位を付けたりして行先を決める。 - しおりの作成（日付、訪問先、活動場所、日程の見通し） ※生徒の実態に応じて、小学部～高等部の段階から内容を選択する。		- 学習の目標を知る。 - 本日の日付、曜日、当日までの見通しを持つ。 - 訪問先の施設・設備の内容や特徴、公共交通機関等を知る、調べる。 - 訪問地の情報を収集したり必要に応じて問い合わせや申し込みをする。 - 友達の意見と比較したり、優先順位と付けたりして計画を立てる。 - しおりを作成する。（日付、訪問先、活動場所、日程の見通し） ※生徒の実態に応じて、小学部～高等部の段階から内容を選択する。	

段階	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
関連する教科・段階 育成する資質・能力	国語 〔知識・技能〕	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じることに。	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じることに。	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くことに。	(ア) 身近な大人や友達とのやり取りを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことに。	(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことに。	(ア) 社会生活に係る人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことに。
	—	—	—	(ハ) 普通の言葉との違いに気を付けて、丁寧な言葉を使うことに。	(ハ) 敬体と常体があることを理解し、その違いに注意しながら書くことに。	(ハ) 日常よく使われる敬語を理解し使うことに。	(ハ) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることに。
	国語 〔思考力・判断力・表現力等〕	ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ることに。	ア 身近な人の話や簡単な放送などを聞き、聞いたことを書き留めたり分らないことを聞き返したりして、話の大体を捉えることに。	ア 身近な人の話や放送などを聞きながら、聞いたことを簡単に書き留めたり、分からないときは聞き返したりして、内容の大体を捉えることに。	ア 社会の中で関わる人の話などを、話し手が伝えたいことの中心に注意して聞き、話の内容を捉えることに。
		イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。	—	—	—	—
		ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えることに。	イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えることに。	イ 話す事柄を思い浮かべ、伝えたいことを決めることに。	イ 相手や目的に応じて、自分の伝えたいことを明確にすること。	イ 目的に応じて、話題を決め、集めた材料を比較するなど伝え合うために必要な事柄を選ぶことに。
		—	—	ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えることに。	ウ 見聞きしたことや経験したこと、自分の意見やその理由について、内容の大体が伝わるように伝える順序や伝え方を考えることに。	ウ 話の中心が明確になるよう話の構成を考えることに。
	A 聞くこと・話すこと	—	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うことに。	エ 自己紹介や電話の受け答えなど、相手や目的に応じた話し方で話すことに。	エ 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすること。	—	—
	—	—	カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。	オ 相手の話に関心をもち、分かったことや感じたことを伝え合い、考えをもつことに。	オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめることに。	オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることに。	オ 互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
	生活 ウ 日課・予定	(イ) 簡単な日課について、関心をもつことに。〔知識及び技能〕	(イ) 身近な日課・予定について知ること。〔知識及び技能〕	(イ) 日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けることに。〔知識及び技能〕	—	—	—
	算数・数学 C 測定	—	—	㊦ 日常生活の中で時刻を読むことに。 ㊧ 時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解すること。〔知識及び技能〕	—	—	—
	—	—	—	㊦ 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。〔思考力、判断力、表現力等〕	—	—
	算数・数学 D データの活用	—	—	イ 身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ 数を記号で表現したりして、考える力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕	イ 身の回りの事象を、データの特徴に着目して捉え、簡潔に表現したり、考察したりする力を 養う。〔思考力、判断力、表現力等〕	イ 身の回りの事象について整理されたデータの 特徴に着目し、事象を簡潔に表現したり、適切に判断したりする力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕	イ 目的に応じてデータを収集し、データの特徴や傾向に着目して、表やグラフに的確に表現し、それらを用いて問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に捉え考察したりする力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕
	—	—	—	㊦ 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活とを結び付けて表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 時間の単位に着目し、簡単な時刻や時間の求め方を日常生活に生かすこと。〔思考力、判断力、表現力等〕	—	—
	生活（小） コ 社会の仕組みと公共施設 社会（中） イ 公共施設 と制度 社会（高） イ 公共施設の役割と制度	(ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気付き、それを教師と一緒にみんなに伝えようとするに。〔思考力、判断力、表現力等〕	(ア) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気付き、それらを表現しようとするに。〔思考力、判断力、表現力等〕	(ア) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。〔知識及び技能〕	㊦ 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。〔知識及び技能〕	㊦ 生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。〔知識及び技能〕
	—	(イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつことに。〔知識及び技能〕	(イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。〔知識及び技能〕	(イ) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。〔知識及び技能〕	④ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること〔思考力、判断力、表現力等〕	④ 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	④ 生活に関係の深い公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕
	社会（中） オ 我が国の地理や歴史 社会（高） オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史	—	—	㊦ 身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。〔知識及び技能〕 ④ 都道府県内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現 すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 自分たちの県の概要を理解すること。〔知識及び技能〕 ④ 我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解すること。〔知識及び技能〕 ④ 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 世界における我が国の国土の位置、国土の構成、領土の範囲などを大まかに理解すること。〔知識及び技能〕 ④ 世界の大陸と主な海洋、主な国の位置、海洋に囲まれ多数の島からなる国土の 構成などに着目して、我が国の国土の様子を捉え、その特色を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕
	—	—	—	㊦ 身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知ること。〔知識及び技能〕 ④ 交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知ること。〔知識及び技能〕 ④ 歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の業績、優れた文化遺産などを理解すること。〔知識及び技能〕 ④ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	㊦ 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の変化を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。〔知識及び技能〕 ④ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕
学びに向かう力・人間性	学習内容に見通しを持ち、教師や友達と一緒に最後まで取り組もうとしている。			学習内容に見通しを持ち、友達と分担して計画を立てることに最後まで取り組もうとしている。		学習内容に見通しを持ち、友達と共に計画を立てることに最後まで取り組もうとしている。	

③ 学習内容表－6

学部		小学部		中学部		高等部									
学習内容		公共施設や公共交通機関の利用		生活	公共施設や公共交通機関の利用		社会	公共施設や公共交通機関の利用		社会					
段階		1段階		2段階		3段階		1段階		2段階					
目指す姿		・通学バスに乗る。慣れる。 ・かりん号（学校バス）に乗る。慣れる。		・教師や家族と一緒に町営バス（くるりん号：山元町／さざんか号：巨理町）に乗る。 ・教師や家族と一緒に料金を支払う。		・教師と一緒にJR坂元駅からJR巨理駅まで利用する。 ・町の公共施設等へ行く。 ・JRの利用について基本的な仕組みを理解し、教師や家族と一緒に又は部分的に一人で行う。		・教師と一緒に居住地の駅から近隣の市や町の駅までJRを利用する。（仙台宿泊） ・新幹線の利用の仕方を知る。（修学旅行） ・町の公共交通施設へ行き、その役割を知る。 ・JRの利用の仕組みを理解し、一人で行う部分を増やす。		・JR、バス、地下鉄を利用する。 ・新幹線の利用の仕方を知る。（修学旅行） ・町の公共施設等に行き、その役割や必要性を知る。 ・ICカードの利用の仕方を知る。		・JRやバス等を一人で利用する。 ・空港施設や飛行機の利用の仕方を知る。（修学旅行） ・就労希望先や福祉サービスに関する施設（町役場等）、余暇活動に関する施設を知り、公共交通機関を利用して行く。		・JRやバス等を乗り継ぎ、通勤等で近隣の市や町の駅まで一人で日常的に利用する。 ・空港施設への行き方、空港施設や飛行機の利用の仕方を知る。（修学旅行） ・非常時の対応の仕方を知り、適切に行う。 ・卒業に利用する施設等を自分で調べて利用する。	
学習内容		・JRの駅やバス亭の場所を知る。 ・電車やバス等の乗り物を知る。 ・乗り物の利用に関心を持つ。		・町営バスの利用の仕方を知る。（バスの停留所での待ち方、乗り方、整理券、降り方、料金の支払い方等） ・療育手帳の提示の仕方を知る。		・JRの利用の基本的な仕組みを知る。（切符の買い方、改札の通り方、ホームでの待ち方、電車内での利用の仕方等）		・居住地や近隣の市や町の駅の場所や施設について知る。 ・JRの利用の仕方の仕組みを知る。（時刻表の見方、券売機の使い方、ホームの番線、上り下り等） ・療育手帳の福祉的サービスについて知る。		・ICカードのチャージの仕方、電子マネーとしての利用の仕方を知る。 ・公共交通機関の利用に関する情報の利用の仕方を知る。（乗車時刻、遅延情報等の調べ方を知る。） ・療育手帳の福祉的サービスの利用の仕方を知る。		・公共交通機関の利用に関する情報の集め方を知り、調べる。 ・ICカードの仕組みを理解し、使用する。 ・療育手帳の福祉的サービスを利用する。（窓口へ行き、自分で利用する。）		・公共交通機関の利用に関する情報（乗車時刻、乗り換え、料金、遅延情報等）を自分で収集して判断し、適切に利用する。 ・ICカードの仕組みを適切に理解して利用する。 ・計画的に公共交通機関を利用する。	
関連する教科・段階／資質・能力	生活（小） 社会（中） イ 公共施設と制度 （高） イ 公共施設の役割と制度	（ア）身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。〔思考力、判断力、表現力等〕		（ア）教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気づき、それらを表現しようとする。〔思考力、判断力、表現力等〕		（ア）日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕		（ア） ㊲ 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。〔知識及び技能〕 ㊱ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕		（ア） ㊲ 自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。〔知識及び技能〕 ㊱ 公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕		（ア） ㊲ 生活に関係の深い公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。〔知識及び技能〕 ㊱ 生活に関係の深い公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕		（ア） ㊲ 地域における公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。〔知識及び技能〕 ㊱ 地域における公共施設や公共物の利用の仕方を調べ、適切な活用を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	
		（イ）身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。〔知識及び技能〕		（イ）身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知る。〔知識及び技能〕		（イ）日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。〔知識及び技能〕		（イ） ㊲ 身近な生活に関する制度が分かること。〔知識及び技能〕 ㊱ 身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕		（イ） ㊲ 社会に関する基本的な制度について理解すること。〔知識及び技能〕 ㊱ 社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕		（イ） ㊲ 我が国の政治の基本的な仕組みや働きについて理解すること。〔知識及び技能〕 ㊱ 国や地方公共団体の政治の取組について調べ、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕		（イ） ㊲ 生活に関係の深い制度について理解すること。〔知識及び技能〕 ㊱ 生活に関係の深い制度について調べ、その活用を考え、表現すること。〔思考力、判断力、表現力等〕	

生活単元学習の「単元計画作成ガイド」

1 知的障害のある児童生徒の特性と生活単元学習

知的障害のある児童生徒の学習上の特性は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功体験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分育っていないことが挙げられます。

また、実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際の・具体的な指導が必要であり、抽象的な内容の指導よりも効果的です。

そのため、生活単元学習では、知的障害のある児童生徒の学習上の特性に沿い、実際の生活に即して実際の・具体的に学び、生活の場面で生きる力を身に付けていきます。

知的障害のある児童生徒の
学習上の特性



実際の・具体的な内容の指導



生活の場面に即した学習形態
(生活単元学習)

2 生活単元学習とは？

児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際の・総合的に学習するものです。また、学習の中に各教科等の目標や内容が扱われます。

3 単元計画で考慮すること

(ア) 単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態や生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
(イ) 単元は、必要な知識や技能の習得とともに、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図るものであり、生活上の望ましい態度や習慣が形成され、身に付けた指導内容が現在や将来の生活に生かされるようにすること。
(ウ) 単元は、児童生徒が指導目標への意識や期待をもち、見通しをもって、単元の活動に意欲的に取り組むものであり、目的意識や課題意識、課題の解決への意欲等をも含んだものであること。
(エ) 単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。
(オ) 単元は、各単元における児童生徒の指導目標を達成するための課題の解決に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
(カ) 単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること。

生活単元学習の指導を計画するに当たっては、1つの単元が、2、3日で終わる場合うもあれば1学期間など長期にわたる場合もあるため、年間における単元の配置、各単元の構成や展開について、組織的・体系的に検討し、評価・改善する必要がある。

(引用：学習指導要領解説各教科等編)

4 学習内容に含まれる教科の段階について

生活単元学習の学習には、各教科等の目標や内容が扱われますが、教科の段階を念頭に置くことで、より個に応じた指導の充実に資する単元計画を作成することができます。教科の段階は、発達期における知的機能の障害が、同一学年であっても、個人差が大きく、学力や学習状況も異なるため、各教科の内容を、学年でなく段階別に示されています。段階は、児童生徒の生活年齢を基盤とし、知的能力や適応能力、及び概念的な能力を考慮しながら配列されています。児童生徒の成長とともに、学習の場や範囲が広がり、より深い理解や学習へと発展し、学習や生活を質的に高めていくことのできる構成になっています。

各段階の構成	
【小学部1段階】	主として知的障害の程度は、比較的強く、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのにほぼ常時援助が必要である者を対象とした内容を示している。 この段階では、知的発達が極めて未分化であり、認知面での発達も十分でないことや、生活経験の積み重ねが少ないことなどから、主として教師の直接的な援助を受けながら、児童が体験し、事物に気付き注意を向けたり、関心や興味をもったりすることや、基本的な行動の一つ一つを着実に身に付けたりすることをねらいとする内容を示している。
【小学部2段階】	知的障害の程度は、1段階ほどではないが、他人との意思の疎通に困難があり、日常生活を営むのに頻繁に援助を必要とする者を対象とした内容を示している。 この段階では、1段階を踏まえ、主として教師からの言葉掛けによる援助を受けながら、教師が示した動作や動きを模倣したりするなどして、目的をもった遊びや行動をとったり、児童が基本的な行動を身に付けることをねらいとする内容を示している。
【小学部3段階】	知的障害の程度は、他人との意思の疎通や日常生活を営む際に困難さが見られる。適宜援助を必要とする者を対象とした内容を示している。 この段階では、2段階を踏まえ、主として児童が自ら場面や順序などの様子に気付いたり、主体的に活動に取り組んだりしながら、社会生活につながる行動を身に付けることをねらいとする内容を示している。
【中学部1段階】	小学部3段階を踏まえ生活年齢に応じながら主として経験の積み重ねを重視するとともに、他人との意思の疎通や日常生活への適応に困難が大きい生徒にも配慮した内容を示している。 この段階では主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、経験したことを活用したり、順番を考えたりして、日常生活や社会生活の基礎を育てることをねらいとする内容を示している。
【中学部2段階】	中学部1段階を踏まえ、生徒の日常生活や社会生活及び将来の職業生活の基礎を育てることをねらいとする内容を示している。 この段階では、主として生徒が自ら主体的に活動に取り組み、目的に応じて選択したり、処理したりするなど工夫し、将来の職業生活を見据えた力を身に付けられるようにしていくことをねらいとする内容を示している。
【高等部1段階】	中学部2段階の内容やそれまでの経験を踏まえ、生活年齢に応じながら、主として卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活などの関連を考慮した、基礎的な内容を示している。 この段階では、主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の生活を見据えた基本的な生活習慣、社会性及び職業能力等を身に付けられるようにしていくことをねらいとする内容を示している。
【高等部2段階】	高等部1段階を踏まえ、比較的障害の程度が軽度である生徒を対象として、卒業後の家庭生活、社会生活及び職業生活等の関連を考慮した、発展的な内容を示している。 この段階では、主として生徒自らが主体的に学び、卒業後の実際の生活に必要な生活習慣、社会性及び職業能力等を習得することをねらいとする実用的かつ発展的な内容を示している。

(引用：学習指導要領解説各教科等編 第4章 第1節 5 段階の考え方)

5 単元計画を立てよう

※この手順は一例です。実態把握から始め、各項目を行き来しながら考えていきます。

学習集団

(学部・学級)

個別

1 児童生徒の実態把握	・学習集団全体の興味・関心 ・知的障害の程度 ・学び方の特性や傾向 ・卒業後の姿、進路希望
2 個別の指導計画	・生活単元学習、及び関連する教科等の目標、段階を確認する。
3 既習事項の確認	・小学部・中学部・高等部の学習の履歴 ・個別の学びの履歴、学習状況
4 昨年度の評価	・単元目標、単元計画、実施内容、指導方法、時数、教材・教具、施設設備、教師の協力体制…等
5 単元の目標	・本単元で付けたい力を焦点化して目標設定をする。 ・前年度の目標と同様ではなく、児童生徒の実態に応じて単元の目標や単元の構成を発展的・創造的に考えるようする。
6 単元系統表	①単元概要一覧 該当学部の学習内容を把握します。小・中・高の段階から、学習がどのように行われてきて、どのようにつながっていくか確認する。 ②関連する教科一覧 学習内容に何の教科が関連しているか確認する。 ③学習内容表 学習内容に関連する教科や段階、育成を目指す資質・能力等を確認する。
7 教科の段階	・個別の指導計画の教科の目標と④学習内容に含まれる教科の段階を参考にして、生徒の段階を把握する。 ＜例＞対象生徒：高等部2年 個別の指導計画や実態等から、教科の段階を小学部1段階と想定する。しかし、生活年齢は高等部であるので、高等部段階の学習内容を念頭に置きながら、個別の支援では目指す姿（小1）を目安とすることで、関連する教科の内容が見え、個に応じた指導・支援や目標設定に近づけることができる。
8 単元構想	・③単元計画で考慮すること参照 ・主体的・対話的で深い学び ・教科の見方・考え方
9 本時の目標	・学部段階の目指す姿より、児童生徒の具体的な学習活動をイメージして目標を設定する。
10 単元系統表	・③学習内容表から、学習活動に関連する教科を確認します。 ・関連する教科の段階から、児童生徒一人一人の教科の内容や資質・能力を把握する。 ・単元で取り上げる教科を焦点化する。 ・教科別の指導の時間の状況等を把握し、本単元で内容を関連付けたり発展させたりするなど、教科で学んだ力が活用できるようにする。
11 児童生徒の目標	・本単元で特に身に付けさせたい資質・能力を焦点化し、各教科の段階を把握することで、具体的な目標設定に近づけることができる。 ・児童生徒の実態に応じて発展的な内容や下学部の内容を参考にして目標を設定する。

6 単元計画の実際

校外宿泊学習単元「修学旅行に行こう」

1

生徒の実態把握例

集団

個別

- 高等部2年2学級10名の実態
 - ・知的障害の程度（軽度～重度重複）
自閉症、ADHD、感音性難聴
 - ・日常生活、意思疎通等、頻繁に教師の支援が必要な生徒2～3名
 - ・真面目に取り組むが、指示待ち傾向
 - ・見通しが持てないことに不安を感じやすい。
 - ・不注意さ、衝動性、集中力に課題
 - ・生活経験不足
 - ・友達との関わり：一方的な傾向
 - ・公共交通機関等を利用した自力通学者5名

- 修学旅行に関する実態
 - ・中学校通常学級で社会科の授業を受けてきた生徒2名
 - ・日本の歴史について、ゲーム等から興味・関心がある生徒3名
 - ・電車等の公共交通機関に関心がある生徒1名
 - ・非日常の変化に弱い傾向のある生徒

- 進路希望

生活介護施設等	3名
就労継続A・B型	4名
一般就労	3名

2

個別の指導計画

- 2学年10名の生活単元学習の目標に共通するキーワード
 - ・見通し
 - ・計画
 - ・自分で
 - ・公共交通機関の利用

- 諸検査結果
S-M社会生活能力検査第3版

省略

- 関連する教科の段階と生徒の段階

小学部1～2段階程度	3名
小学部3段階程度	1名
中学部1～2段階程度	2名
高等部1～2段階程度	4名

 （各教科等編 P23 第4章 第1節 5 段階の考え方）

- 個別の指導計画
 - ・生活単元学習の目標
 - ・関連する教科の段階と実施内容

3

既習事項の確認

○高等部の校外学習

学年	実施時期	単元名	方面・利用施設	公共交通機関
1年	7月	校外学習	・仙台方面 ・八木山動物園、駅前商業施設	JR、地下鉄
1年	12月	仙台宿泊学習	・わらしべ舎 ・すまいるライフ南仙台 ・宮城県障害者福祉センター ・仙台市内クラス別研修（瑞巖殿、仙台城跡等）	JR、地下鉄、バス
2年	7月	校外学習	・仙台空港 ・商業施設	JR

- 既習事項
 - ・地域～仙台市内の公共交通機関の利用の仕方、実践
 - ・タブレットや自分のスマートフォンを使用した公共交通機関の利用方法の検索や、訪問先等に関する情報のキーワード検索
 - ・公共のルール、マナーに関する学習
 - ・食事施設への電話予約（一般就労～就労継続A型を希望する生徒のみ）

- 生徒の実態より＜指導方法に関すること＞
 - ・学習集団→学習内容や単元の目標から、指導の形態を集団と個別支援を適切に選択して行う。
 - ・視覚支援や活動への見通しを持たせる支援が必要。
 - ・できる状況を整えた上で、自分で最後まで取り組む場面設定

4 昨年度の評価

○昨年度の反省

- ・ 単元計画：12 月修学旅行直前の時期に連続して設定
- ・ 生徒に考えさせたり，選択したりする場面が少なく，教師主導傾向
- ・ 生徒の実態に応じた学習内容の設定

事前学習を直前の期間だけでなく，1 か月前等に短時間の学習を行うことで，生徒に修学旅行に対する見通しを持たせ，主体的に学習に取り組めるのではないかな。

5 単元の目標

<教育計画（「山元の教育」別冊 高等部）>

高等部 2 年「修学旅行に行こう」京都・大阪方面

- ・ 京都・大阪で訪問する施設等について調べまとめることができる。
〔知識及び技能〕
- ・ 調べたことを基に行先を選んだり，計画を立てたりすることができる。
〔思考力，判断力，表現力等〕
- ・ 京都・大阪で訪問する施設等に関心を持ち，最後まで取り組もうとしている。
〔学びに向かう力，人間性等〕

6 単元系統表

①②③

① 単元概要一覧

修学旅行の方面（小：那須，中：東京，高：京都・大阪）

② 関連する教科一覧

③ 学習内容表

- ・ 国語 A 聞くこと・話すこと
- ・ 社会 ア 社会参加ときまり，イ 公共施設と制度(中)，イ 公共施設の役割と制度(高)
オ 我が国の地理や歴史(中)，オ 我が国の国土の様子と国民生活・歴史(高)
- ・ 算数・数学 A 数と計算，C 測定，D データの活用
- ・ 家庭 A 家族・家庭生活 ウ 家庭生活における健康管理と余暇
B 衣食住の生活 ア 食事の役割 ウ 衣服の選択
C 消費生活・環境 ア 消費生活
- ・ 美術 A 表現
- ・ 道徳 C 主として集団や社会との関わりに関すること
規則の尊重～遵法精神，公德心，よりよい学校生活，集団生活の充実，
伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

7

生徒の教科等における段

○本単元に関連する主な教科の段階と生徒の段階

生徒	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
国語	中2	小1	省略							
社会	高1	中1								

単元系統表より<学習内容に関すること>

- ・ 生徒の実態や各教科等の段階→小学部 1 段階から高等部 1～2 段階の生徒が在籍。
- ・ 学習集団全体の学習内容は，生活年齢（高等部段階）の学習内容を行う。
- ・ 個別の指導において，生徒の実態や教科等の段階，段階における目指す姿を考慮して，具体的な指導内容や目標を設定する。

修学旅行の計画

12月11日（水）
仙台空港集合・出発→【空路】→伊丹空港→【リムジンバス】→京都駅→（昼食）→京都タワー→京都駅【JR】→ 伏見稲荷大社 →【阪急電鉄】→京橋駅→ホテル
12月12日（木）
ホテル→【JR】→ ユニバーサルスタジオジャパン →【JR】→ホテル
12月13日（金）
ホテル→【徒歩】→ 大阪城 →【地下鉄】→道頓堀グループ別研修→【リムジンバス】→伊丹空港→【空路】→仙台空港着・解散

これまでの単元計画		本時	本実践		
1	ねらい, 日程, 活動内容, 学習活動の見通し		1	ねらい, 日程, 学習活動の見通し, 目標設定	国・社
2	目標設定		2	利用施設(※伏見稲荷大社, USJ, 大阪城)の調査, 質問	国・社
3	利用施設の計画作成と確認 (日程・場所・交通手段・昼食)		3	1日目の活動計画立案 ※伏見稲荷での活動へ反映 (公共交通機関・昼食電話申込)	国・社 数・家 道徳
4	昼食場所の選定とメニュー決め		4	2日目の活動計画立案 ※USJでの活動へ反映 (公共交通機関, 昼食場所・料金)	国・社 数・家 道徳
5	公共交通機関の利用とマナー		5	3日目の活動計画立案 ※大阪城での活動へ反映 (公共交通機関, 買い物)	国・社 数・家 道徳
6	買い物計画と予算		6	道頓堀グループ別研修計画立案①② ※利用施設コース別のグループ編成	国・社 数・家 道徳
7	グループ別研修の計画		7	(公共交通機関, 昼食場所, 施設の調査, 友達との意見調整)	
8	荷物の確認 ねらい, 日程, 活動計画の確認		8	ねらい, 日程, 活動計画の確認 荷物の確認	国・社 家庭・道徳
9	当日		9	当日	(特活)
10	振り返り (全体～個別)		10	振り返り (全体～個別: 余暇への広がり)	国・美

＜授業改善の考え方＞

- 主体的な学び - 自己選択・自己決定（条件の下での選択）	- 利用施設の調査, 質問 生徒の興味・関心→訪問施設の情報収集→教科の見方・考え方（社会）→計画への反映→当日の体験→振り返り（他の訪問施設への興味・関心への広がり, 余暇活動へ） 「道頓堀グループ別研修」「USJ」での活動 利用施設別グループ編成, 友達との対話や関わり
個人差への対応（役割分担・協働）	- 集団内の役割分担 - 学習内容に応じて, 指導内容や方法, 学習形態を工夫する。
実生活に基づいた学習活動	- 昼食場所, メニューの事前選択 → 電話の掛け方～予約申込 - 公共交通機関の利用→ICT機器の活用（路線・時刻・料金検索）
できる状況づくり 繰り返し	- 環境整備 - 情報収集の仕方（視覚支援, ICTの活用, 個別の支援） - 計画の立て方を知る→立案→当日の活動→次の活動へ
他者との対話や関わりの中で学びを深める	「他者がいることや対話することで自分の考えが広がり深まる活動」 - 自分達で訪問施設の内容を調べる - 先輩や教師へ昨年度の修学旅行について質問する - 調べた情報の紹介, 自分で調べた情報との違いや広がりを感じ取る。

9

本時の目標

高等部段階の目指す姿より

本時の目標

- ①京都・大阪で訪問する施設について質問したり、調べたりすることができる。〔知識及び技能〕
 ②これまで訪問した施設等と京都・大阪を比較して、それらの特徴や大まかな地理、歴史、文化等の関連を考えたり、感じ取ったりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕
 ③京都・大阪で訪問する施設等に関心を持ち、最後まで取り組もうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

10

本時の目標

単元系統表③

学習内容

11

生徒の目標

	生徒A	生徒B
生徒の実態	・見通しが持てることには自信をもって取り組むが、相手や場に応じた関わり方が難しい。	・発語なし。 ・簡単な指示を理解して行動できる。
国語に関する実態	・立場の違いに応じた話し方や、目的に応じて話すことが難しい。 ・要点をまとめて話すことが難しい。	・自分の名前を平仮名で書く。 ・文字より絵や写真等の視覚支援が有効である。
社会に関する実態	・ニュースを見ている。世の中の動きを感じ取って会話することができる。	・教師と一緒に身近な施設や公共交通機関を利用することができる。
本単元に関連する主な教科の段階	国語 中学部2段階 A 聞くこと・話すこと イ 相手や目的に応じて自分の伝えたいことを明確にすること。 ・相手や話す目的を意識して必要な事柄をまとめる ・身近な人々から異学年の生徒等への広がり。 ・説明や報告、知りたいことを聞く、互いの考えを伝え合う等、目的を明確にして話すことができるように指導する。 オ 物事を決めるために、簡単な役割や進め方に沿って話し合い、考えをまとめること。 ・司会者、提案者、参加者 ・互いの考えの共通点や相違点を確認しながら、話し合いを進める。	国語 小学部1段階 A 聞くこと・話すこと ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。 アは、教師が話し掛ける場面の状況や絵本の挿絵などを手掛かりに、内容を大まかに把握し、応答することを示している。 イは、児童が、家族や友達など身近な人から話し掛けられた状況を受け止め、関心をもって話し手を見たり、音声で模倣したり、返事をしたり、簡単な言葉で表現したりすることを示している。(以下略)
具体的な指導内容例	社会 高等部1・2段階 オ 我が国の国土の様子と国民生活、歴史 ① 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。 ② 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、世の中の様子の変化を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。 ③ 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、世の中の様子の変化を考え、表現すること。	社会 中学部1段階 イ 公共施設と制度 ② 身近な公共施設や公共物の役割が分かること。 ③ 公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること ・実際の指導に当たっては、これらの公共施設について位置を地図で確認したり、施設についてインターネットを利用して調べたり、実際に見学や利用をしたりするなどして、その役割と名称と位置を一体的に結び付け、自分の生活との関連について考え、積極的に利用しようとする意識を育てることが大切である。
生徒の本時の目標	・修学旅行で訪問する施設について質問したり、自分で調べたりすることができる。〔知識及び技能〕 ・これまで訪問した施設等と京都・大阪の特色を比較して考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 ・友達と共に最後まで取り組もうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕	・修学旅行で訪問する施設が分かる。〔知識及び技能〕 ・修学旅行で訪問する施設等の特徴や内容を感じ取り、興味・関心のある施設を選ぶことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 ・ハンドサインやカード等を用いて、教師と一緒に質問しようしたり、選ぶようしたりしている。〔学びに向かう力、人間性等〕